平成２２年度
東北地方整備局事業評価監視委員会
（第２回）質問事項について

Ⅰ　国道４５号　八戸南環状道路

Ⅱ　国道１３号　院内道路

Ⅰ．国道４５号　八戸南環状道路

○質問事項

八戸南環状道路の整備方針として、東北縦貫道との接続部からの延伸ではなく、飛び地区間から整備供用している理由如何。

○説　　明

１．高規格幹線道路の整備方針

高規格幹線道路については、早期にネットワークが構築されるよう、供用区間への接続、供用区間からの延伸を基本。

なお、現道において道路線形等の構造や、渋滞・事故等の問題で交通隘路となっている区間については、早急な対策が必要として優先的に整備を進める場合もある。

八戸久慈自動車道については、上記方針を踏まえ東北縦貫自動車道八戸線に接続する八戸南環状道路を平成３年度に事業化し、さらに延伸区間となる八戸南道路を平成７年度に事業化。

２．八戸南環状道路の整備方針

八戸南環状道路は、高規格幹線道路ネットワークの形成とともに八戸市内の国道４５号の混雑緩和等を目的とした事業の中で、

①八戸南ＩＣ近傍の国道４５号には主要渋滞ポイントの大開交差点があり、早期に渋滞の解消・緩和を図る必要があったこと。

②個別ＩＣ間としては、八戸ＪＣＴ～是川ＩＣ間に対し、是川ＩＣ～八戸南ＩＣ間における計画交通量が多く整備効果が高いこと。

③八戸南環状道路の事業進捗として、平成８年度以降、八戸ＪＣＴ～是川ＩＣ間については産業廃棄物処分場通過の検討に時間を割かれたため、進捗に差が生じた。

などの状況から総合的に判断し、是川ＩＣ～八戸南ＩＣ間を先行して供用し、整備効果の早期発現を目指したもの。



	整備前(H9)	整備後(H19)
最大渋滞長	500m	150m
最大通過時間	6分	2分

八戸南環状道路周辺図

Ⅱ．国道１３号　院内道路

○質問事項

院内道路整備による時間短縮が３分であるのに対し、費用便益比が高い（Ｂ／Ｃ＝２．２）理由如何。

○説　　明

１．便益の算定

費用便益分析における前提条件としては、計画路線が全て整備された道路ネットワーク（いわゆるフルネットワーク）で、院内道路の有無による総走行時間費用の差（走行時間短縮便益）、走行経費の差（走行経費減少便益）、交通事故による社会的損失の差（交通事故減少便益）の３便益の総額を算定。

院内道路では、秋田県内のほか岩手、宮城、山形各県で秋田県に隣接する地方生活圏内の範囲の道路を対象に３便益の総額を算定。

２．院内道路整備における走行時間短縮便益

院内道路整備に伴う平成４２年時点の年間便益額は約１４億円。うち約９割の約１２億円が走行時間短縮便益。

その内訳は、①院内道路整備に伴う現道からの転換交通による走行時間短縮便益が年間約３億円、②東北縦貫道、日本海沿岸道、国道１０８号などの周辺道路における走行時間短縮便益の総額として年間約９億円。

このように院内道路における走行時間短縮便益は、当該道路部分の他に周辺道路を含めたネットワーク全体での便益として算出された結果によるもの。

骨格幹線道路ネットワーク図

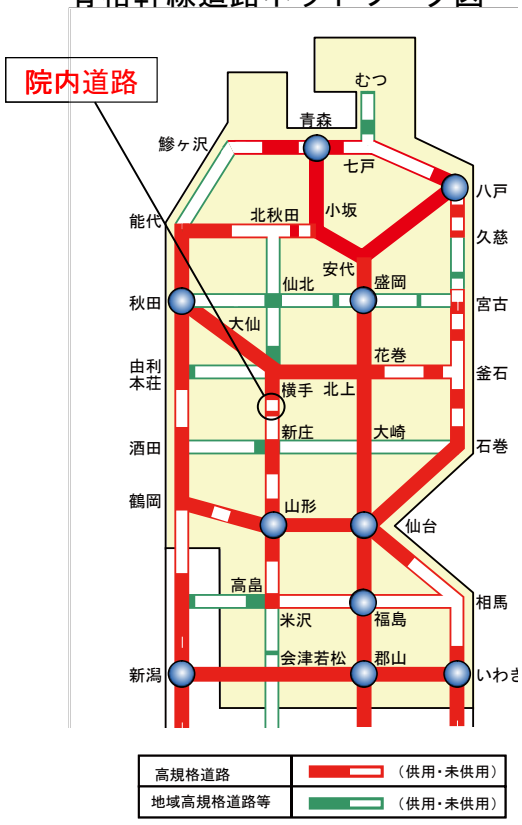

図　主な周辺道路の交通量の変化

